

## アラカルト

兵庫県中小企業組合士協会会長



高井史郎さん

shirou takai

## 混迷する現代こそ 組合と組合士が必要

今年の6月に開催された組合士制度創設40周年・全国中小企業組合士協会連合会創立30周年記念式典での「全国中小企業団体中央会会長表彰」の総代として表彰を受けた兵庫県中小企業組合士協会高井史郎会長に、組合士制度の歴史と共に歩んだご自身の組合士としての活動についてお聞きした。

### ●組合士になって視野が広がった

高井会長は、大正12年創業の高井工業（本社・神戸市）で管工事や電気工事に従事、平成4年に代表取締役役に就任。10年の退任後も兵庫県管工事業厚生年金基金理事長や一般社団法人兵庫県消防設備保守協会会長などを歴任している。また、平成17年には兵庫県の「県功労者」（土木建設功労）表彰を受けている。

「長年会社をやっておりますので、賞をいただくことも何度かありましたが、中央会の会長表彰はやはりありがたいですね。これからいっそうがんばらなくてはと思っております」と笑顔で話す。

高井会長が組合検定試験に合格したのは昭和50年。「今年は中小企業組合士制度創設から40周年ということで、私もほぼ同じ道をたどってきたのだと感慨深いものがありますね。先代の社長だった父が理事をしていた関係もありまして、54年頃から管工事業の組合の理事に就任しました」と振り返る。

当時は昭和30年代からの高度成長期に続く右肩上が

りの経済が続いていた。

「組合活動は共同購入や共同販売が中心であった。その頃、兵庫県中央会の担当者から組合検定試験の受験を勧められたのです」

組合士の認知度は低く、合格者もまだ少なかった時代だった。「『しっかり勉強しなくては』と奮起して勉強したことを覚えています。幸い、合格することができました。合格してすぐにメリットを得られる資格ではありませんが、やはりビジネス上の視野が広がりましたね。自分でも情報を積極的に収集するようになりました」

### ●組合の活性化が生き残りのカギ

組合士となってからは、組合と業界のために奔走してきた高井会長だが、昨今の組合の組織率の低下には危惧を感じている。

「かつては小さな会社が寄り添って『みんなで団結してがんばっていこう』という気概を持っていましたが、今はそれぞれが自由にやっていきたいようで、組合に加盟する企業は減ってきていますね。しかし、不況が長引き、少子高齢化が進む中で、企業の生き残りを考えた場合、組合の存在感は大きいと思います。今後はどのように組合を活性化させていくかが課題だと思います。理事会で提案できるような信念のある組合職員の育成も必要ですね」

### ●受験で自分を磨いてほしい

高井会長の働きかけもあって、兵庫県内では組合検定試験の受験者は増加傾向にあり、全組合員に受験を励行する組合も存在する。

「兵庫県で増えてきているのは嬉しいですね。一部の組合幹部には組合士養成に積極的でない人もいますが、兵庫県では無料で受験講座を開くなど、継続的に支援しています。全国中央会にも支援してもらっているのは心強いですね」

先の見えない不況や若年層の減少はどの業界も抱えている問題であり、特効薬的な打開策はない。

「ウルトラCを探しているけど、なかなか難しいですね。若い人の感性に期待しています」

最後に若手へのメッセージをお願いした。

「資格制度もたくさんありますが、ぜひ組合検定試験を受けてほしいですね。私たちが心から応援しますので、ぜひ挑戦していただきたいです。どの業界、どの会社でも組合士の資格は役に立ちます。自分を磨く意味でもがんばってほしいものです」